

魅力あるまちを 未来へつなぐ



とよま絆の会 代表

佐々木 康明さん(71)

このまちを後世に残すためには、地域が抱える少子高齢化などの課題と向き合いながら、地域全体が一体となり、まちづくりを進める組織が必要だと感じていました。登米には、歴史、文化や地域振興などの団体が多くありますが、これまでは、それぞれの立場で活動し、連携することが多くありませんでした。そこで、まちづくりの主体となり、まちの魅力を生かしながら活性化するために、各団体が連携した持続可能な組織として、平成28年に「とよま絆の会」を設立しました。地域の各団体から参加してもらい、現在48人で活動しています。

とよま絆の会では、共通認識として地域のアイデンティティ(独自性)の確立が必要と考え、地域課題と特性を知るために、勉強会などを実施しています。また、長く後世に残すためには、地域の活性化が不可欠。体験型イベントの開催な

どにより、観光客が増えることで活性化につながると思います。

登米の文化財や町並みは、すばらしい魅力を持っていますが、住んでいると当たり前で、そのことに気付いていない人が多いと感じています。まちづくりの原点であり主役となるのは、ほかの誰でもない、ここに住む人みんなです。どんなまちにしたいのかを自分たちで考え、誇りと愛着を持つことが重要です。待っていれば行政が何でもしてくれる時代ではありません。地域が主体となり、積極的に行動し、行政を巻き込みながら共に取り組むことが大切です。

この町並みを残し、継承していくための課題は多くありますが「できない理由を探すのではなく、できるための条件を探し、できることから始める」ことが、このまちを未来へつなぐ第一歩だと考えています。

未来への継承

市は、昨年6月に東北工業大学と「旧城下町・登米の歴史的建造物の調査と価値発信プロジェクトの連携・協力等に関する覚書」を締結。東北工業大学の学生が、登米の建造物を調査し、新たな魅力発見に取り組んでいる。また、地域住民も独自に団体を設立して活動。民学官が連携しながら、貴重な財産を次代へ継承する。

歴史を読み解き 未来へ伝える



東北工業大学
工学部建築学科講師

中村 琢巳さん(40)

建物の歴史から学ぶ

東北工業大学の中村研究室では、伝統建築の価値を学ぶ日本建築史を専門に研究している。講師の中村琢巳さんは「研究のテーマは、歴史的建造物を未来に伝える方法を考えること。歴史的建造物は、価値にふさわしい保存、活用や定期的な修復が不可欠。そのため、建物が歩んだ歴史を丹念に調べる必要がある。学術研究だけの狭い視点ではなく、地域の人と価値を共有し、保存や再生を一緒に考えていくことが大切になってくる」と地域との協働を重視する。



建物の歴史を調査する学生たち

明治、大正、昭和への時代の移り変わりを色濃く映し出している」と登米の魅力語る。この町並みができた背景には、佐藤朝吉氏の活躍がある。佐藤氏は、大工の棟梁として旧登米高等尋常小学校などを建築。佐藤氏引退後は、モダンな建築技術を弟子たちが継承し、商店街の蔵などを多数建築した。

醸造業を営む「海老喜」の旧店舗など、江戸末期から大正後期に建築された建物8棟が、5月10日に国の有形文化財に登録された。みそしょうゆ醸造業を営む海老喜は、1833(天保4)年に創業した。文化財登録のきっかけは、東北工業大学の調査。8代目の海老名康和さんは「建物は使わなければ朽ちていく。利用することで生き続ける。旧酒蔵を資料館に、旧醤油仕込蔵は貸しホールとして利用。表蔵は倉庫にしていたが、店舗やイベントなどで利用したい人に貸したい」と活用方法を常に模索している。



海老喜 8代目
海老名 康和さん(53)

「見るだけでなく、実際に利用できる文化財にしたい。建物は使われてこそ意味がある。建物を活用しながら、先代の生活、文化や思いを後世に伝えたい」と未来への継承を誓う。



人と共に生きる町並み

市は、歴史的建造物が多く残る登米町寺池地区で、住宅などを新築、増築や改修する経費の一部を助成する「登米市街なみ景観整備事業」を実施。景観を地域と共に守り、未来へ残すためだ。

技術の進歩や社会構造の変化などにより、全国で同じような景観が増えているが、登米の町並みはここにしかない唯一無二のもの。記憶や記録が残るこの町並みは、登米市の宝物だ。宝物は、磨かなければさびれ、その存在を忘れてしまう。だからこそ大切にしていかなければならない。

まちの魅力や価値を知り、高めていけるのは、私たち登米市民だけ。私たちにできることは、地域の特性と魅力を知り、町並みを継承していく方法を話し合い、できることから行動に移すことではないだろうか。まちを愛し、守り、伝えたいという「人」と「心」を次の世代につなぐことこそが、本当の意味で「みやぎの明治村」を未来へ継承することになる。明治元年から150年、受け継いだ風景、守るべき財産をさらにその先へ。



表蔵：利用したい人に貸し出し

旧酒蔵：蔵の資料館として公開

旧店舗：スレートで葺いた屋根と2階のなまこ壁が特徴